

流域住民主体で四万十川の 環境保全と地域活性化の活動

1 社会資本の概要

四万十川は豊かな自然環境・景観を有し、かつ川漁など古来より流域住民の暮らしと密着した川として親しまれ、日本最後の清流として全国から注目され、その景観は国選定文化財の「重要文化的景観」にも選定されています。近年、地場産業であるアユや天然スジアオノリの漁獲量が減少し、貴重な財産である四万十川を核とした地域活性化方策がテーマともなっています。その中で、四万十川下流域の入田地区では河川管理者による河川事業によって、菜の花が自然に開花するようになり約10ヘクタールにもわたる菜の花群落が生じ、「菜の花まつり」が開催されるようになりました。



四万十川の豊かな自然環境



落ち鮎漁

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

当協議会は平成14年11月に設立され、現在66団体約1,800人の会員により、四万十川を核とした「川づくり」「人づくり」「まちづくり」を3つの柱として、四万十川の環境保全や地域活性化を目的に、春の「菜の花まつり」をはじめ各種のイベントへの参加、「四万十の水辺八十八カ所」の選定等による流域の観光資源の発掘・PR、貴重植物の保護、河川の清掃など多様な活動を行っています。

また、河川管理者が実施する河川事業に関し、漁協関係者や地元住民による意見交換会や現地研修会の開催、貴重植物等の四万十川自然観察会を行うなど、四万十川を舞台に「みんなで考えみんなで行動」「継続は力」をモットーに四万十川の自然再生・環境保全と地域に役立つ取組を行っています。



四万十川での自然観察会



四万十の水辺八十八カ所めぐり



高知県 四万十市 四万十川自然再生協議会



3 活動の成果や波及効果等

入田地区での「菜の花まつり」は当協議会の発案、取組により実施したのですが、回を重ねる毎に関心の高まりや取組の輪が広がり、今では四万十市、商工会議所、観光協会との関係団体が一丸となって取り組む四万十市の一大観光イベントに発展し、当初は近隣市民を中心に約4,000人の来場者であったものが、今では観光ツアーにも組み込まれるなど、約20,000人の来場者が県内外から訪れています。



河川敷に開花した菜の花を舞台とした「菜の花まつり」



「菜の花まつり」(地元野菜の販売)



「菜の花まつり」(地元の野草学習)

喜びの声



受賞者

四万十川自然再生協議会
会長 西尾 正

コメント

協議会の長年の活動が認められ、この賞を頂いたことを励みに、これからも四万十川の環境保全や地域活性化に向け、地域の皆様と一丸となった活動を続けていきたいと思っております。

活動内容

自然観察会、河川の清掃、地域イベントへの参加、河川事業の現地研修会の開催、観光資源の発掘・PRなど

活動の経緯

平成14年 四万十川自然再生協議会の発足
平成18年 貴重植物マイヅルテンナンショウを発見・保護活動の開始
平成20年 菜の花まつりを企画・開催
平成22年 四万十の水辺八十八カ所を選定

手づくり郷土賞
について

グランプリ2016

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

高知県四万十市

活動主体及び連絡先

四万十川自然再生協議会 (0880-35-3308 事務局 平石)

対象となる社会資本

一級河川渡川水系四万十川 ※管理者:国土交通省 中村河川国道事務所

